

週報 第3331回

会長 杉本 憲一 副会長 中 透
幹事 細川 嘉則 SAA 川崎 久典

例会場 ホテルレイクアルスターアルザ泉大津
TEL 0725-20-1121
例会日時 毎週金曜日12:30~13:30



事務局 〒595-0062 泉大津市田中町10-7 泉大津商工会議所3F
TEL.0725-21-9500 FAX.0725-21-9501
メールアドレス info@izumiotsu-rc.org
ホームページ http://izumiotsu-rc.org



今週の例会 (2026年4月3日) 第3331回

■ プログラム

卓話担当 卓話担当
白谷 喜世彦 70周年実行委員長
「70周年事業卓話」

■ 次週のプログラム

4月10日: 卓話担当 前山 佳司 会員

■ 今後の予定

4月17日: 卓話担当 松村 泰英 会員

■ 祝 誕生日

なし

■ 今月のロータリーソング

手に手つないで

今月の歌

おぼろ月夜

菜の花畑に 入日うすれ
見わたす山の端 かすみ深し
春風そよ吹く 空を見れば
夕月かかりて においあわし

■ 先週の例会

会長の時間



杉本 憲一 会長

安全な水と衛生設備の利用は、すべての人がもつべき権利。なのに、汚染水で病気になる人や命を落とす人が後を絶ちません。未来を担うはずの子どもたちは、水汲みなどの労働によって学校に通えず、つらい境遇を強いられています。

私たちの活動は、井戸を掘るだけではありません。安全な水と衛生設備を提供した上で、衛生や伝染病予防に関する教育も行うことで、コミュニティ全体の生活を改善し、子どもの通学率を高めています。

3月は国際ロータリーにおける「水と衛生月間」です。この月間は、安全な水と衛生設備の不足が世界的な問題であるとの認識に基づき、ロータリーがこの分野

での活動を強調するために設定されました。

「水と衛生月間」の目的

安全な水と衛生設備の利用は、すべての人々が持つべき権利との理念。

ロータリーの奉仕活動への参加を促す。

世界の水と衛生の現状

世界の3人に1人が、安全に管理された飲み水を利用できません。

2020年の国連データによると、世界人口の10人に3人は安全な水を利用できず、10人に6人は安全な衛生施設を利用できません。

毎日3,000人以上の子どもが、水に関連する病気で亡くなっています。

汚染された水による下痢性疾患で命を落とす子どもは、毎日3,000人(20秒に1人)に上ると報告されています。

将来的に、気候変動により4人に1人が慢性的な水不足に直面すると予測されています。

日本の水問題

近年、日本では水害の多発、水源の買い占め、汚染の風評被害、温暖化による水産資源の変化などが問題となっています。

東日本大震災では、被災者が困ったこととして「水・食料が入手しにくい」が最も多く挙げられました。

災害時には、安全な飲料水の確保や簡易トイレの衛生的な利用が課題となります。

水問題への取り組み

水問題解決のため、様々な取り組みが行われています。

国際的な動き

1977年 国連水会議で「1980年代を国際水供給と衛生の10年とする」と決定

2015年 SDGs第6目標で「すべての人々が水と衛生施設を利用できるようにし、持続可能な水・衛生管理を確実にする」と示される

ロータリークラブの活動

ロータリークラブは、その初の奉仕活動がシカゴ市への公衆トイレの寄贈であったように、「水と衛生」を重点分野の一つとしています。

活動内容

井戸や浄水施設の建設。

トイレや衛生設備の設置。

衛生教育の実施と、手洗いやその他の衛生習慣の推進。

地域社会の能力強化。

淡水保全のため、UNEPと協力して「淡水保全のためのコミュニティアクション」を開始。

成果事例

2,500万人以上に安全な水を供給。

1,000万人以上に衛生設備を提供。

500万人以上に衛生教育を実施。

パプアニューギニアで4,000人利用の雨水貯水タンクを設置。

タンザニアのキゴゴ村で1,500人分の水供給システムを設置。

ユニセフの活動

ユニセフもまた「水と衛生」を主要な活動分野としています。

清潔な水の供給のための給水設備(井戸など)の建設。

衛生的な生活のためのトイレ設置。

学校や保健所を通じた衛生教育(石鹸を使った正しい手洗いなど)。

幹事報告

細川 嘉則 幹事

- 皆様のメールボックスに、2025～2026年度の後期会費納入のお願いを入れさせていただいております。納入の期限は4月24日(金)とさせていただきますので、よろしくお願い致します。
- 和泉ロータリークラブ例会変更のお知らせ
4月15日(水)の例会は、4月11日(土)スイスホテル南海大阪で創立65周年記念式典。

委員会報告

- 本日例会終了後、みやびの間におきまして委員会行いますので、委員会メンバーの方はご出席のほどお願い致します。
(松内 俊夫 70周年実行副委員長)
- 4月5日(日)飛行機、桜、日本酒・クラフトビール
— 春を五感で味わう一日 — ということで同好会開催します。まだ余裕がございますので、皆様の参加お待ちしております。来週の月曜日で締切りしたいと思います。最終案内はラインの方にアップしますので、よろしくお願い致します。(細川 嘉則 幹事)

■ ビジター

なし

■ 出席報告 会員数40名 出席免除 0名

月日	出席数	欠席	補充	出席率
3/27	29名	11名	—	72.50%
3/6	32名	8名	2名	85.00%

■ メークアップ

榎本(3/10 ワールド大阪ロータリーEクラブ)
森口(2/27 70周年実行委員会)

■ ニコニコ箱

- ・本日今井克範会員、卓話よろしくお祈いします
(杉本)
- ・今井会員、本日の卓話よろしくお祈いいたします
(細川)
- ・今井様、本日の卓話よろしくお祈いします。メンバーとハンデに恵まれ、70周年記念コンペ優勝させていただきました。ありがとうございます。(川崎)
- ・70周年ゴルフコンペありがとうございました。大たたき賞たくさんいただき、楽しませていただきました
(川端)
- ・欠席のおわび(藤野)

ニコニコ箱合計	21,000円
累計	530,500円

先週のプログラム

70周年事業「心の傷を癒すということ」の事業振り返り

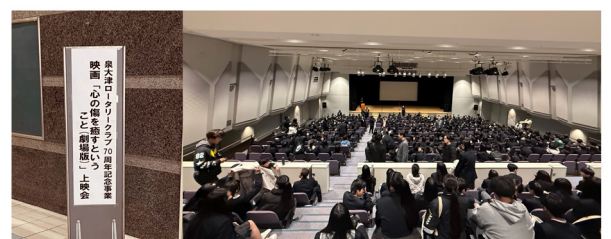


卓話担当 今井 克範 会員 (70周年実行委員)

泉大津ロータリークラブ70周年記念事業

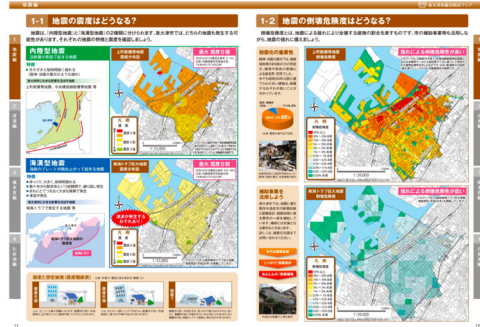
映画「心の傷を癒すということ(劇場版)」上映会

2026年1月15日 テクスピア大阪



上映会の事前学習

ハザードマップや防災グッズの確認を行う



上映会の事前学習



上映会後の生徒の感想文

地震で家や家族を失った人たちは、体は無事でも心が深く傷ついていました。その時見た目では大丈夫でも中身が傷ついている、見ただけではわかりにくい傷もあるということがわかりました。主人公は、そうした人たちの話を丁寧に聞き、「つらかったですね」と声をかけ続けます。その姿を見て、話を聞いてもらうことが、どれほど人を救うのかがわかりました。私は「弱いことは恥ずかしくない」という言葉が素敵だと思いました。弱さ＝短所を人に見せることはとても勇気がいると思います。弱い所を知って相手はどう思うだろうか、自分の弱さを知られたくないなど色々考えてしまいます。そうなってしまうのは多分心の奥で強がっている自分があるからなんだと思います。でもどんな人でも完璧な人はいないし必ず弱さがあるもの、そう考えると弱さなんか全然見せるじゃんと思えました。でも1人で悩んでいる人はこの世界に沢山います。それは弱さを見せることに抵抗があり今頑張っている弱さを見せようとしている人や弱さを受け入れるような世の中になっていないからだと思います。なので友達、家族、そして自分の弱さを受け入れそれを理解しようとする努力をしたいと思います。主人公は「心のケアとは誰もひとりぼっちにしないこと」と言っていました。心がしんどい人のそばにずっといるという意味のひとりぼっちにしない、もありましたと考えや感情に共感するという意味のひとりぼっちにしないということもありました。主人公は絶対に誰かを1人にすることはありませんでした。今の世の中、自分のことに専念しすぎて周りの人を見れていない、着いてこれない人はほっとらかしな感じがします。そんな時に誰か1人だけでも足を止めて手を差し伸べてあげる優しさが大事なのではないでしょうか。

上映会後の生徒の感想文

私がこの映画で心に残った言葉は、阪神大震災直後に地域の子どもが「僕は男のくせに弱い。」と言葉を言った後、「弱いことは恥ずかしくない、弱いから人が傷ついていることに気づける。」と言葉をかけたのが印象的だった。安先生はきっと在日韓国人としての悩みや孤独を知っているからこそ人の心に寄り添えるんだなと思った。避難所で「精神科のお医者さんにお世話になると噂されたら困る」と被災者から避けられたりして、何かしてあげたいのに何もできないというもどかしさを当時の安先生は感じていたんじゃないかなと思った。災害により被災者の心に植えつけられた恐怖は葉でどうにかなるものではないから、だからこそ安先生は「1人にしない」「そばにいたい」ことこそが心のケアだと言い被災者の心の声に耳を傾け続けた結果、被災者と共に安先生の心も癒されていくところが感動的だった。実際に、安先生が湯浅に自分が在日韓国人だと打ち明けたシーンでは、湯浅は特に何も言わず「そうか」と言うだけだった。当時日本では在日韓国人は冷遇されたそうだけど、安先生は孤独だった自分のそばに湯浅がずっといてくれたから言及はされてなかったけれど安先生は湯浅にすこく支えられたんじゃないかなと思った。やっぱり自分が人にしてもらって嬉しかったことは人にもしてあげるものだなと思った。最後安先生が癌になり難病と闘いながらも精神科医として、人間として最後まで一生懸命に生き抜く姿がとても心に刺さった。苦しんでいる人がいて寄り添おうとしても拒絶されるかもしれないけど、そばにいて生きる力になると思うから、私はそんな力を人に与えられる人間になりたいと思った。

上映会後の生徒の感想文

私が一番心に残っているのは、「名前」です。理由は、初めは、自分たち家族が本当は在日韓国人で、名字も「安田」ではなく、「安」だと知った時、名前が嫌いだと言っていました。でもその後、湯浅さんにいうと、「そうか。」とか、「安田と安どっちで呼んで欲しいんや」って受け止めて、寄り添ってもらい、和隆さんは、少し気が楽になっているように感じました。永野先生に名前を聞かれた時は、躊躇しながら、「安です。不安の安です。」と答えていて、きっとその時はまだ自分の名前が嫌いと思っていたけど、記者の人には、「安心の安です。」と答えていたことから、精神科医として周りの人と接していくうちに、和隆さんの周りの人や、和隆さんによくしてもらった人だけでなく、和隆さん自身にも心の変化があったのではないかと感じたからです。

私が映画を通して思ったことは、自分と似た境遇にいる人や、一緒にいると楽しいと思える人だと少しでも心を開いて話せると感じたし、そういう人には自分の気持ちを伝えることが大切だということ。そして、自分を守ったり、安心させるためにした行動や放ったちょっとした言葉が、相手を傷つけようと思っていなくても、想像異常に人を傷つけてしまうということです。

地震が起きた後、避難した場所で地震ごっこをしている子がいて、大人たちは怒っていたけど、和隆さんが、その子達は、悪気があったわけではなく、受け止めようとしているんだと思うと話した時、キックベースができるようになってきて、それを子供だけでするんじゃないかってみんなも集まって応援したり、気持ちが伝わったことで、少しずつみんなが笑えるようになっていたと感じました。

時間が経って、街が昔のように賑やかになっても、地震がきっかけでみんなの心に刻まれたトラウマや、地震以外での心の傷も、深くささって戻らないこともあるとわかりました。

心の傷にも大きいものや小さいものがある、人それぞれだけど、映画の後に話してくれたように一歩踏み出すということが大切だということがわかったし、映画を通して実感できたと思います。

ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基盤として奉仕の理想を奨励し、これを育むことにある。

具体的には、次の各項を奨励することにある。

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること。
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること。
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および 社会生活において、日々、奉仕の理念を实践すること。
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

四つのテスト

= 言動はこれに照らしてから =

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか